

古代東海道の駅路を歩こう！ 34 (常盤平～酒井根～ 柏 ～根戸～布施)

日 時 ■ 2009 年 4月29日(水・祝) 11:00～17:00頃

集 合 ■ 新京成線／常盤平駅(南口広場階段下) ※松戸から5駅10分。

コース ■ 常盤平駅～(旧鉄道連隊演習線跡)～栗ヶ沢(分岐点)～酒井根～東中新宿<昼食休憩>～
豊 住～日立台(あかね緑地)～柏神社～根戸新田～根 戸～布 施(東海寺、あけぼの山)
<街道ルート約12km>

その他 ■ 雨天の場合は延期します(日程未定)。判断がつかない場合は、主催者までご連絡下さい。

連絡先 ■ 大竹 亮(旧街道ウォーク代表、NPO全国街道交流会議理事)

■今回の活動について

昨年1月より板東諸国の古代東海道を歩き始め、相模国府(平塚)から武蔵国府(府中)下総国府(市川)を経て、前回までに常陸国龍ヶ崎に至りました。今後さらに常陸国府(石岡)を目指す予定ですが、ここで一息入れて、別ルートの検証(オプション企画)を差し挟みたいと思います。

本年2月15日に踏破した常盤平～我孫子の区間については、柏市史の詳細な記述に基づき、常盤平から最短距離で往時の手賀沼湖畔(藤心付近)に出て、ここを古代茜津駅に推定し、その後西側へ迂回して手賀沼を越えて我孫子に至るルートを探りました。この柏市史の記述は地形図の分析に基づき直線状道路痕跡の断片をつなぐなど説得力のあるものですが、陸路としては遠回りになることも否定できません。

そこで、当日のコースマップにも示されている別ルート(「大竹説のルート」と記載)を実際に歩き、2つのルートを比較検討してみましょう。当日と同じ常盤平からスタートし、趣向を変えて旧鉄道連隊演習線の跡を探して歩き、栗ヶ沢の分岐点から別ルートに入り、途中、古代茜津駅に推定するあかね緑地を経て、柏から根戸、布施に至り、東海寺から利根川を望んで終わります。

実はこれは、10年以上前から私が推定し、提唱してきた後期古道東海道の道筋の一部をなすものです。ちなみに、現在まで歩いている道筋は、我孫子、布佐、龍ヶ崎から江戸崎、阿見を経由して土浦、石岡に至る東回りのコースですが、私の説は、柏、守谷、つくばを経て土浦、石岡に至るT×・常磐道に沿った西回りのコースです。地図を見ればお判りのように、こちらの方が全体として市川から石岡へより直達すると考えます。いかがでしょうか。1000年以上も前の古代官道の道筋を実際に歩きながら、あれこれ推定・検証するという貴重な体験です。皆さんこの機会に是非ご一緒にどうぞ。

* * * *

■古代の道について

古代官道：奈良・平安の中央集権国家時代には、都から全国に向けて7つの「官道」が整備されました。約16kmごとに駅家が設けられ、幅員6～12mの立派な側溝付舗装道路がほぼ一直線の最短距離で各地の国府を結んでいたとされています。従来は記録文書から推定するしかありませんでしたが、近年では各地で発掘等による発見が続き、その実態が判明しつつあります。

古代東海道：都から海沿いに関東に至る行政圏で、官道の名称でもあります。古代東海道の道筋は時代によって変遷し、初期の道筋は、三浦半島から房総半島へ東京湾を渡っていました。これに対し、相模国府(平塚)、武蔵国府(府中)、下総国府(市川)を経て常陸国府(石岡)へ至っていたのが中期の道筋です。当会では、1999年～2001年にかけて初期と後期の古代東海道の一部を歩いていますが、昨年からは中期のルートを探索しています。(なお、今回の別ルートは後期のものです)

■沿道の見どころ

旧鉄道連隊演習線●戦時中に軍事演習のために敷設された線路。急カーブ多数。戦後、新京成電鉄に転用。

往還通と大道通●栗ヶ沢分岐点から前回のルートに「往還通」、今回のルートには「大道通」の地名が残る。

日立台付近●古代東海道推定路に沿って都市計画道路が整備されつつあり、往時の風景を彷彿とさせる。

あかね緑地●往古の旧手賀沼湖畔の深い谷に突き出す丘にあり、古代東海道・茜津駅の可能性が示唆される。

水戸街道柏神社●江戸時代の水戸街道は柏に宿場がなかった。広大な馬の放牧地があり、柏神社がその北限。

東海寺(布施弁天)●利根川低地に突き出た丘の上に、古刹・紅龍山東海寺(807年開山、布施弁天)が鎮座。